



ゆかり通信

VOL. 304

令和 5 年 5 月

SENSHOJI YUKARI NEWSLETTER

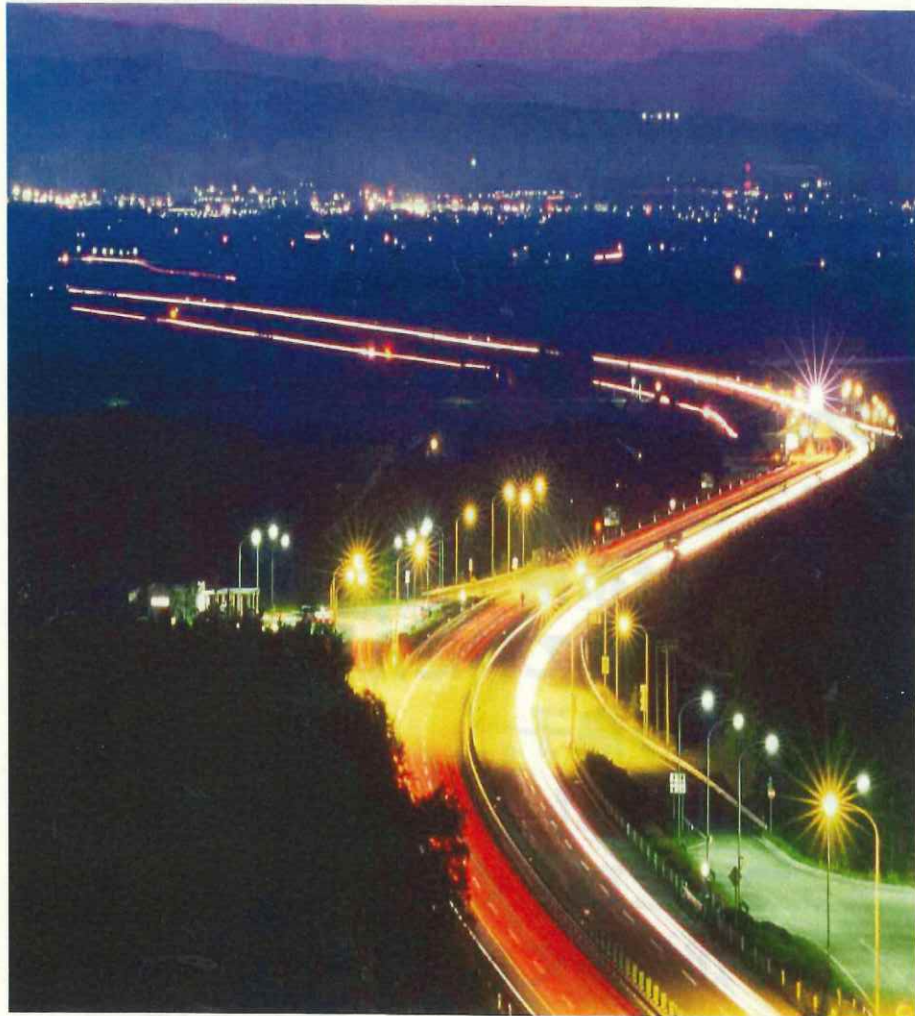
1994-2023

北海道千歳市清水町1-14 鶴竇山 千正寺

TEL: 0123-23-2442 FAX: 0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2023年千正寺カレンダー 5月の言葉



石狩平野を眼下にコムカラ峠

子ども時代をしっかりとたのしんでください。
おとなになっても、老人になっても、
あなたを支えてくれるのは、子ども時代の「あなた」です。
(石井桃子氏)

誰もが知っている『ピーターラビットのおはなし』、『クマのプーさん』などの翻訳を手掛け図書館に行くと人気ある沢山の本の表紙に「石井桃子」さんの名前がのっています。今月のお言葉は児童文学作家、翻訳家である石井桃子さんの言葉です。

私は子供を育てたことはありませんが、一般的によく言われていることで「人格の土台はだいたい3歳くらいに形成され、10歳くらいまでに確定する」という説があります。私自身、自分の精神が10歳から成長していないとは思いますが、物事を判断する際の土台となっている部分が年月とともに大きく変わったか？と言われると違う気がします。

幼い頃に形成された自分の根底となっている部分があり、なにかを体験することで、これは駄目だからあれをしよう、あれはもっとこうの方が良かったなどと経験を積み重ねることで一般的な振る舞いや考え方ができるようになったとしてもその根底となっている部分はいくつになっても変わっていないような気がします。

話は変わりますが、私の母が亡くなる数年前から物忘れの病気になってしまいました。そして病院にお見舞いに行くと毎回「昨日海に行ってきた」という話を楽しそうにしてくれました。当たり前ですが入院中に勝手に外出することはできません。不思議に思って姉に相談したところ、母は海の近くで育ち幼い頃から海に行き親の手伝いをしてきたから、きっとその記憶だろうと教えてくれました。

しかし私は母と数十年一緒に暮らしてきたのにそんな話は一度も聞いたことはありませんでした。そんなこともあるのかと興味を持ち、少し調べてみると人間の記憶というの最近の記憶と、古い記憶は違う場所で管理されていて物忘れの病気になってしまうと最近の記憶は覚えてられなくても、古い記憶はきちんと残っているそうです。

私たちは日々追われ、なにかと目先のことばかりを考えなくてはいけない毎日ですが、記憶の根底にはずっと幼い頃の記憶や感情があり続けているということなのでしょう。ちなみに現在の親世代の方々に「子供のどんなところを伸ばしてあげたいですか？」という質問をしたところ、1位「他人を思いやる気持ち」29.9%、2位「自己肯定感」14.0%、3位「目標に向けて努力を継続する力」13.2%という割合になっています。そのためには「愛情たっぷりに育てること」「いっしょに遊んであげること」が大切とのこと。この文に目を通してくださる方でこれから子育てという方はあまりいないかもしれませんがもし小さい子に接する機会があるのなら、愛情たっぷりに遊んであげるとその子を一生に渡って支えてあげられるかもしれませんね。 (文：行武秀明法務員)